



(3) 担当部署

計画の担当部署	名称	コーポレート本部ブランド企画部
	電話番号等	03-5540-7617
公表の担当部署	名称	コーポレート本部ブランド企画部
	電話番号等	03-5540-7617

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス： <a href="https://www.asahi.com/corporate/csr/12940413">https://www.asahi.com/corporate/csr/12940413</a>
	窓口で閲覧	閲覧場所：
		所在地：
		閲覧可能時間
	冊子	冊子名：
入手方法：		
その他	アドレス：	

(5) 指定年度等

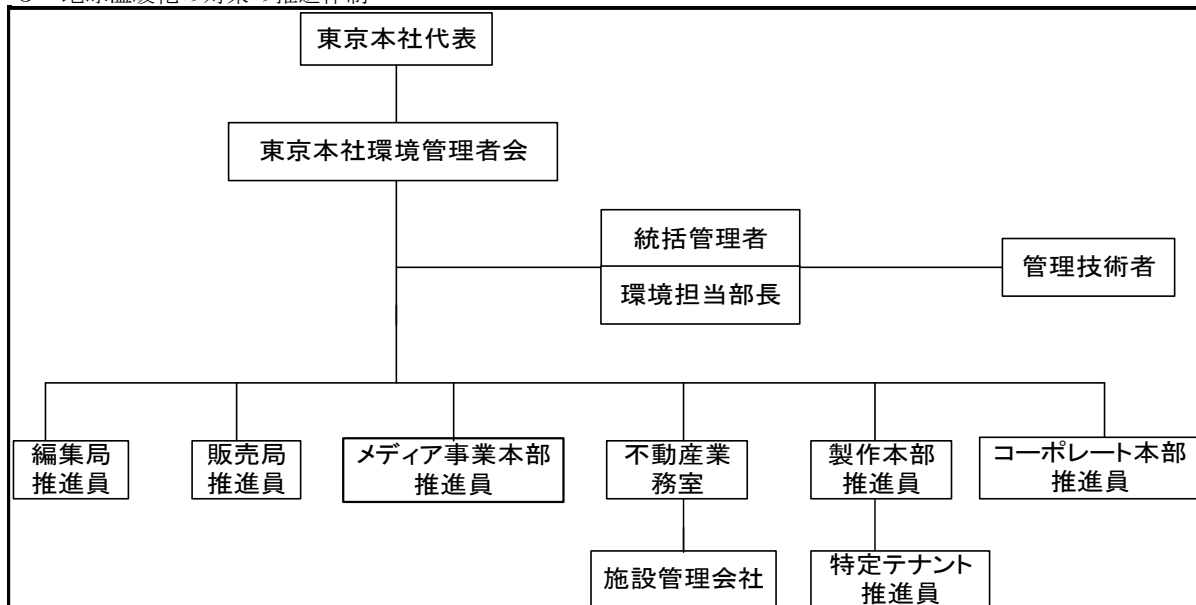
指定地球温暖化対策事業所	2009	年度	事業所の使用開始年月日	1980	年	4	月	23	日
特定地球温暖化対策事業所	2009	年度							

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

2011年度から改正省エネ法が要請する省エネに積極的に取り組み、エネルギーの利用効率「エネルギーに関わる原単位」を年平均で1%以上削減を目標とし、直近の5年度間平均で1.6%削減しました。  
 2023年に朝日新聞社および朝日新聞グループの温室効果ガスの削減目標を設定し、照明等の設備の高効率化、空調設備の効率的な運用、こまめな消灯など節電対策を継続的に行い、温室効果ガスの削減に努めています。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：  
 川崎工場に太陽発電設備(自営自家消費)を設置しています。今後の再エネ導入について検討しています。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2025 年度から 2029 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	2024年度の削減率は60%と第四計画期間の削減義務率50%を達成しているが、積極的な高効率設備の導入及び、エネルギー使用の最適化・効率化を追求し、前年度比1%以上の削減を目標とする。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	当事業所から排出される特定温室効果ガス以外のガス（その他ガス）は、水道の使用及び下水道への排水に伴う二酸化炭素の排出が主体となっている。したがって、節水を行うことで、その他ガスを削減する。		
削減義務の概要	基準排出量	26,044 t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	I-1
	排出上限量（削減義務期間合計）	65,110 t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	50%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2030 年度から 2034 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	積極的な高効率設備への更新などにより、前年度比1%以上の削減を目標とする。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	現在の削減計画期間と同様に、引き続き節水を行うことで、その他ガスを削減する。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
特定温室効果ガス（エネルギー起源CO <sub>2</sub> ）		11,653	11,466	8,526	8,034	10,539
その他ガス	非エネルギー起源二酸化炭素（CO <sub>2</sub> ）					
	メタン（CH <sub>4</sub> ）					
	一酸化二窒素（N <sub>2</sub> O）					
	ハイドロフルオロカーボン（HFC）					
	パーフルオロカーボン（PFC）					
	六ふっ化いおう（SF <sub>6</sub> ）					
	三ふっ化窒素（NF <sub>3</sub> ）					
上水・下水		39	39	39	39	40
合計		11,692	11,505	8,565	8,073	10,579

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/㎡・年

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
延べ面積当たり特定温室効果ガス年度排出量	92.2	90.7	67.5	63.6	83.4

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（2002年度、2003年度、2004年度）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
変更年度						

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I - 1
----------	-------

(4) 削減義務期間

2020年度から 2024年度まで
-------------------

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	26,044	26,044	26,044	26,044	26,044	130,220
	削減義務率 (B)	27.00%	27.00%	27.00%	27.00%	27.00%	
	排出上限量 (C = Σ A - D)						95,065
	削減義務量 (D = Σ (A × B))						35,155
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	11,653	11,466	8,526	8,034	10,539	50,218
	排出削減量 (F = A - E)	14,391	14,578	17,518	18,010	15,505	80,002

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input checked="" type="checkbox"/> 削減対策	<input type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input checked="" type="checkbox"/> 設備の増減	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因	<p>電力契約が東京ガス(供給元：エネット)から東京電力に変わり、低炭素電力削減量がなくなったため、特定温室効果ガス排出量は前年度に比べ増加しました。                      ①、②により排出量は削減できましたが、電力契約の変更により低炭素電力削減量がなくなったことの影響が大きかった。                      ①本新館の照明設備をFLR及びHf型からLEDに更新工事を実施し使用電力量が減少した。                      ②輪転機設備の稼働台数が減少したことにより電力使用量が減少した。</p>		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
	【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】				
1	150200	15_照明設備の運用管理	本館照明器具をHfタイプに更新	2010～	
2	150200	15_照明設備の運用管理	ダウンライト照明をLED電球に更新	2010～	
3	150100	15_受変電設備の管理	高圧トランスを高効率型に更新	2011～	
4	130100	13_空気調和の管理	夏季（6月～9月）室温設定を26℃→28℃に変更	2010～	
5	120200	12_冷凍機の効率管理	冷凍機運転スケジュール見直しによる電力削減	2010～	本館冷凍機運用の見直し
6	130200	13_空気調和設備の効率管理	空調機運転スケジュール見直しによる電力削減	2010～	
7	130300	13_換気設備の運転管理	給排気ファンモータを高効率型に更新	2009～	
8	130200	13_空気調和設備の効率管理	空調機送風量削減	2011～	
9	150200	15_照明設備の運用管理	照明器具点灯台数削減	2011～	
10	150200	15_照明設備の運用管理	新館駐車場照明器具更新	2013～	
11	150200	15_照明設備の運用管理	新館照明器具をLEDタイプに更新	2015～	
12	120200	12_冷凍機の効率管理	新館冷凍機更新による電力削減	2015～	
13	360700	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	コンプレッサ更新による電力削減	2015～	
14	150300	15_事務用機器等の管理	基幹システム機器更新による電力削減	2015～	
15	130100	13_空気調和の管理	ホール棟改修工事による電力削減	2021～	空調機ファンINNV化、照明LED化、給湯設備局所化
16	150200	15_照明設備の運用管理	本館照明器具をLEDに更新	2021～	本館コンコース、4～7階、庭園灯、トラックヤード

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No.	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
17					
18					
19					
20					
		(再生可能エネルギーの設備導入及び利用の状況)			
71					
72					
73					
		【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】			
81					
82					
83					
		【排出量取引の計画及び実施の状況】			
91					
92					
93					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

11年度から省エネ法が要請する省エネに積極的に取り組み、エネルギー消費原単位の年平均1%以上削減を目標に設定し、直近の5年度間平均で1.6%削減しました。

1. 東京本社での省エネ取り組み

毎年5月1日から10月末日までをクールビス期間として、軽装の推奨と空調温度の適正化を呼びかけており定着しています。

2. 昨年度の実績

(1) 電力使用量

東京本社の2024年度の電力使用量は、23年度比387千kWh削減しました(削減率1.8%)。主な要因は照明器具のLED化、レイアウト変更工事に伴う空調効率化です。

(2) 都市ガス、水道の使用量

都市ガスの使用量は23年度比7千Nm<sup>3</sup>削減しました(削減率1.6%)。

水道の使用量は23年度と同程度でした。

3. 設備更新など

照明設備のLED化、空調設備の更新を計画的に進めています。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：

川崎工場に太陽発電設備を設置しています。今後の再エネ導入について検討しています。